



『総合診療』編集方針

1991年に創刊した弊誌は、2015年に『JIM』より『総合診療』に誌名を変更いたしました。その後も高齢化はさらに進み、社会構造や価値観、さらなる科学技術の進歩など、日本の医療を取り巻く状況は刻々と変化し続けています。地域医療の真価が問われ、ジェネラルに診ることがいっそう求められる時代となり、ますます「総合診療」への期待が高まってきました。これまで以上に多岐にわたる知識・技術、そして思想・価値観の共有が必要とされています。そこで弊誌は、さらなる誌面の充実を図るべく、2017年にリニューアルをいたしました。本誌は、今後も下記の「編集方針」のもと、既存の価値にとらわれることなく、また診療現場からの要請に応え、読者ならびに執筆者のみなさまとともに、日本の総合診療の新たな未来を切り拓いていく所存です。

2018年1月

『総合診療』編集委員会

- ① 患者の訴え・症状に対応する臨床医に役立つ誌面を構成します。
- ② 主訴・病歴・診察から診断へのアプローチを重視します。
- ③ 常にケースに学び、見逃してはいけない疾患を見極め、診断困難症例から患者の抱える問題を解決するための知識・技術を取り上げます。
- ④ 一般外来や在宅など制約ある診療条件において、また救急や入院病棟など総合診療医が活躍する場面において、患者の状況を適切に判断しマネジメントするための知識・技術を取り上げます。
- ⑤ 予防接種から緩和ケア、病態生理から地域の諸問題への取り組みに至る、総合診療医に必要な、幅広い知識・技術を網羅します。
- ⑥ 他の専門診療科との連携、そして地域における他職種との協働についての知識・技術を取り上げます。
- ⑦ 総合診療医にとって弱点になりがちな分野・領域も取り上げ、かゆいところに手が届く内容となるよう心がけます。
- ⑧ 短時間で必要事項を参照でき、要点を理解できるような誌面構成を心がけます。
- ⑨ たくさんの患者を診つつ、若手の指導もしている臨床医・指導医に、執筆の中軸を担っていただきます。
- ⑩ 読者とのコミュニケーションを重視し、診療における疑問を大切にせる雑誌を目指します。